

台風第19号被害に係る 岩手県宮古市支援活動報告

令和元年10月12日から13日にかけて記録的な豪雨となった台風第19号が、関東・東北地方を中心に、多数の河川氾濫や土砂災害によって甚大な被害をもたらしました。苦小牧市では、「災害時応援協定」の締結都市である岩手県宮古市から給水活動に係る職員派遣要請を受け、給水支援をするために、10月17日から10月29日まで水道技術職員6名、危機管理職員外6名、合わせて12名を派遣しました。

〔現地での活動は〕

宮古市南部の重茂(おもえ)地区や北部の田老地区で給水活動を行いました。



苦小牧市の給水車
田老地区での給水活動状況



〔現地の様子は〕

宮古市街地はほぼ平常でしたが、三陸地方特有の道路で起伏や曲折が多く沢山の道路のため、河川の氾濫や土砂崩れで道路や橋の崩落が発生し、道路下にあるはずの水道管が露出、斜面に流れ落ちていた場所もありました。また、国道のトンネル付近でも土砂崩れで通行止めとなり、移動に通常15分のところを迂回して1時間以上を要しました。

水道は、標高の高いところにある浄水場(配水池)から各家庭に届きますが、その浄水場までの道路が流されて水道職員が浄水場へ行けない状況でした。



重茂南部浄水場への道路が損壊
水道管が露出している

〔支援活動を行って感じたことは〕

被災住民の災害に対する意識の高さ、コミュニティの力にも驚きました。給水作業の自発的協力や水専用ポリタンクの常備、蓋付きバケツを所有している家庭も多かったです。

また、防災無線を活用して、給水所の案内やお風呂時間の案内などをアナウンスしており、災害時の広報の重要性を実感しました。

〔派遣を終えて〕

今回の派遣を通してライフラインである水道の重要性を改めて認識すると同時に、各都市の災害復旧の応援をみて、日本国内における水道事業者の強いつながりを感じました。

苦小牧市としての給水活動は12日間で終わりましたが、依然として被災地は復旧作業が続いている状況です。これからも復興のための協力は惜しまず、苦小牧市としても関係機関と連携しながら、必要に応じた支援体制を講じていきます。一日も早い復旧・復興に少しでも協力していきたいと考えています。



苦小牧市の給水車
重茂地区での給水活動状況